

1. 「語学・異文化学習支援室」の取り組み

「語学・異文化学習支援室」は、授業外の外国語学習や異文化理解学習を落ち着いた環境の中で自律的に取り組むことのできる語学・異文化学習に特化した自習室として、平成 25 年度文部科学省私立大学教育研究活性化設備整備事業（タイプ 1）の助成を受けて整備されました。外国語の授業の課題や予習・復習、e-ラーニング教材（ロゼッタストーンは平成 26 年度で終了）や様々な電子教材を活用した語学のスキルアップ、さらに多文化・異文化の知識を深めるための教材や学習用器材（パソコン、プラズマディスプレイ等）が整備されています。教材の主なものには各種語学資格試験用の問題集（TOEIC、TOEFL、英検、ドイツ語・中国語・韓国語検定）、古今東西の英語やその他の外国語の読み物（[詳細：英語の多読プログラム](#)）、DVD、留学やプレゼンテーションに役立つ教材などがあります。外国語学習が効果を上げるためには継続的な学習が重要な鍵となりますが、「語学・異文化学習支援室」では、自学自習を定期的にチェックしたり、継続化を促したり、また、語学や異文化理解の学習に親しむ機会として、外国語教員による以下のような学習支援が定期的に行われています。

- ・英語の多読プログラムによる読書会
- ・英語ランチタイムミーティング（英会話グループ活動）
- ・英語教員による交代制の語学や留学に関する学生相談

また、学生の授業外学習だけではなく、以下のような自主活動にも活用されています。

- ・留学の事前事後研修におけるプレゼンテーションの練習の場としての活用
- ・本学の留学生支援のための活動の拠点等

2. 経過と現状

現在、「語学・異文化学習支援室」は平日 10 時 30 分～18 時 30 分の時間帯にいつでも自由に利用することができ、外国語の学習や異文化理解に関わる複数のプログラムが定期的に催され、日常的にも語学の授業の課題提出や授業外学習、外国語のスキルアップ、さらに留学生支援など学生の自主活動の拠点としても利用されています。平成 26 年度に 1 年間導入されていた e-ラーニング教材（ロゼッタストーン）は、支援室のアシスタントおよび外国語教員がアカウントを取得した学生および教職員に導入支援を行いました。学生個人の利用に止まらず、外国語の授業や海外研修などに関わるゼミを受けている学生、海外留学を予定している学生・教職員の語学力養成に活用され、支援室は質問の受付などの学習支援の拠点として機能しました。特に海外研修や留学を予定している利用者にとっては、場所や時間に縛られずに集中して自律的に外国語学習ができたことは e-ラーニング教材ならではの活用といえます。利用者のアンケートから、特にリス

ニングやスピーキングに効果があったとの反応がありました。現在は、ロゼッタストーンは終了していますが、学内ネットワークやインターネット及び教学システムである **Universal Passport** を通して、外国語の授業の課題、参考資料、学習教材などの情報にアクセスしやすい環境を整えています。特に、**CALL** 教室と同じシステムが利用できるように整備されており、外国語の聞き取り、書き取り、録音などの課題がスムーズに提出できるよう活用度を高めています。



語学・異文化学習支援室